

# 自然観察 NOW

NO : 35

野幌森林公園自然情報

発行：2019年2月7日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



自然観察会では、春から秋にかけて多くの草花を観察できます。でも冬になると雪に覆われ森は銀世界に変わりますが、キタキツネ、エゾタヌキ、エゾリス、エゾユキウサギなどの足跡を見ることができます。足跡は見ることはできますが、その姿はなかなか見せてくれません。今回のNOWでは各種文献やWeb等を参考にしながら「エゾユキウサギ」を紹介いたします。

## 武器を持たない平和主義のエゾユキウサギの生命力

### 日本に生息する野生のウサギ

北海道にはユキウサギの亜種エゾユキウサギとウサギ目ナキウサギ科エゾナキウサギの2種類が生息する。

本州には日本ノウサギの(亜種)トウホクノウサギ、サドノウサギ、キュウシュウノウサギ、オキノウサギ4種類

分類	
目	ウサギ目
科	ウサギ科
属	ノウサギ属
種	ユキウサギ
亜種	エゾユキウサギ

エゾユキウサギはユキウサギの亜種で、北海道の平野部から山岳地帯に及ぶ広範囲にかけて生息している。

本州に生息するノウサギとは別の種類である。本亜種の呼称はエゾノウサギであったが、研究の結果本州以南に生息するニホンノウサギの亜種ではなく、ユキウサギの亜種であることが判明し、エゾユキウサギと呼称されるようになった。ユキウサギの学名のラテン語 *Lepus timidus* の意味は「臆病なウサギ」である。*Lepus* が「ウサギ」、*timidus* は「臆病な」である。学名が示すように本亜種は、用心深く、昼は身を隠していることが多い。

## エゾユキウサギの特徴

体長は50~60 cm、体重は2~4 kg、耳長は7~8 cmあり集音器の役割と放熱器の役割を果たしている。

足は足裏に毛が密生し、かんじきのような役割を果たす。後足は16~17 cmと大きく時速60~80 kmで走る。

体毛は夏は褐色、冬は白に変化する。

歯は切歯(前歯)臼歯のすべてが一生伸び続ける。3~4歳までの若い時期には、上顎の切歯で、月に8 mm、下顎の切歯は少し早く10 mm程度と言われている。大量の草を食べることへの適応と考えられる。

### ・脱兎のごとく走れるエゾユキウサギ

ウサギは自分の身を守るための武器を持っていない。冬には雪に溶け込む白色に、夏には草原に溶け込むように褐色に変え身を守っている。敵に発見されたときには特別に発達した足を使い「脱兎のごとく」時速70~80 kmのスピードで追跡をかわして逃げることができる。

### ・ウサギの止め足

雪原にエゾユキウサギの足跡が多く見られる。キツネなどがこの足跡を追跡したらねぐらにたどり着くことができ、エゾユキウサギは捕まってしまう。これを避けるため、複雑な足跡を雪原に残している。止め足はしばらく前進した後その足跡を後退したり、また横跳びしたりして自分の足跡を消しているのである。この前進、後退、横跳び等複雑な足跡を残してねぐらにつく。

### ・エゾユキウサギの子育て

出産時期は4~8月下旬、出産する子ウサギの数は1~6頭、出産回数は1, 2回。出産場所は巣を造らず草原の窪みで出産する。生まれた子ウサギは眼が見えて耳も聞こえ、体毛も生えている。母ウサギは、出産後子ウサギから離れ、授乳の時だけ子ウサギのもとに来て授乳する。生後3,4週間で離乳期を迎え、親から離れて子ウサギは自立する。(飼いウサギは眼も開かず耳も聞こえない、体毛は生えていない)

## エゾユキウサギの換毛の時期

### ・冬毛（白色）⇒ 夏毛（褐色）

日照時間が11時間以上になると、ユキウサギは冬毛（白色）から夏毛（褐色）へと3月頃から頭や耳、背中的一部分が白から徐々に褐色へと生え変わる。3～4月頃はまだ模様で5月には白い毛が抜け落ち全身褐色の毛に生え変わる。



12月



4月



5月

### ・夏毛（褐色）⇒ 冬毛（白色）

秋、日照時間が11時間以下になると、夏毛（褐色）から冬毛（白色）へと9月ころから手首、足首の毛の色が徐々に白くなり、10月下旬には全身白色になる（白化）。冬毛から夏毛が変わるときは白の冬毛が抜け落ち新しく褐色の毛が生えてきたが、褐色の毛が白に生え変わるときは褐色の毛が抜け落ちて白の毛が生えてくるのではなく、毛の生え際から徐々に白化する。白化は日照時間や気温、積雪等が影響しているようである。



9月



10月



11月

※写真円山動物園で撮影

## エゾユキウサギの食糞行動

ウサギの糞は2種類ある、自然界でよく見られる丸いコロコロした糞（硬糞）と盲腸で作られる柔らかい軟便がある。ウサギの主食は、草、ササ、木の皮や枝等繊維質のあまり消化が良くないものが多い。普通に胃では消化できず栄養が不足する。これを補うためにウサギには特別長い盲腸があり未消化の食物は盲腸に送られ特別な酵素で発酵させてから軟便として排出する。この軟便には豊富な栄養が含まれている。ウサギは直接肛門に口を当て食べて栄養補給をする。実験で首輪などを付けて盲腸糞を食べれないようにすると衰弱して死んでしまうようである。



肛門から直接盲腸糞を食べる

## 参考文献等

ウサギ学 山田文雄 東大出版会、エゾユキウサギ跳ねる 富士元元春 北海道新聞社、ウサギの生態 高橋喜平 朝日新聞社、うさぎがはねてきた道 川道武男 紀伊国屋書店、Wikipedia 等ネット上の情報閲覧

資料及び情報提供して下さった方

札幌市円山動物園 飼育展示課 総括係 動物解説員 工藤 菜生氏、酪農学園大学附属図書館司書 川端 幸枝氏、北海道ボランティア・レンジャー協議会 春日 順雄氏 感謝

文責 新谷 良一